

猫伝染性腹膜炎 (FIP)

【原因と特徴】

原因は猫コロナウイルスで、比較的ゆっくり進行する全身病です。

感染は発病猫から排泄された唾液・鼻汁や糞便・尿によって直接的に、または汚染された器物(食器・トイレなど)により間接的に鼻からあるいは口から感染します。蜜飼状態で、キャリア猫や発病猫がいる場合の伝染率は高いです。感染猫のうち発病するものは数%以下ですが、発病した猫のほとんどは致命的です。

なお猫コロナウイルスには腸炎のみをおこすものもあります。(軽い場合)

【症状】

発病した猫の大部分は滲出型です。

- 滲出型 (ウェットタイプ)
 - ・ 感染数週間から数ヶ月後に元気消失、食欲不振、発熱、腹囲膨大、呼吸困難、貧血、脱水、黄疸、下痢
 - ・ 腹水あるいは胸水のみが貯留または両者の貯留
 - ・ 病変は肝臓・腎臓・リンパ節・肺などの全身臓器に形成されます
- 非滲出型 (ドライタイプ)
 - ・ 発病までの経過は滲出型とほぼ同様です
 - ・ 中枢神経系や目に病変がみとめられる頻度が高いです

【診断】

診断には、臨床症状(持続性の発熱、神経症状、眼球炎や腎腫大など)、レントゲンや超音波検査(滲出型では、腹・胸水の貯留)、血液検査(好中球増多症、高ガンマグロブリン血症、抗体検査)などの所見を総合して行います。

【治療と予防】

インターフェロンの投与、同時に免疫抑制剤のステロイド剤(プレドニゾロンなど)等を使用します。

ウェットタイプの場合

→胸水があればそれを除去する必要があります。腹水は呼吸の障害や腎臓の圧迫がなければ除去する必要はありません。

杉山動物病院 TEL97-7770